

三隅川水系 河川整備計画

～アユ泳ぐ 自然豊かな ^{みずす}水澄みの

^{とわ}永久に伝えるやすらぎの^{かわと}川音～

平成20年12月

島 根 県

目 次

1 . 流域と河川の概要	1
1.1 流域の概要	1
1.2 河川の現状と課題	4
(1) 治水の現状と課題	4
(2) 利水の現状と課題	6
(3) 河川環境の現状と課題	9
2 . 河川整備計画の目標に関する事項	17
2.1 河川整備計画の対象期間及び区間	17
2.2 洪水による災害の発生の防止又は軽減に関する目標	19
2.3 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標	19
2.4 河川環境の整備と保全に関する目標	19
3 . 河川整備の実施に関する事項	20
3.1 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要	20
(1) 施行区間及び種類	21
(2) 整備目標流量	22
(3) 整備内容	23
3.2 河川維持の目的、種類及び施行の場所	26
3.3 その他河川整備を総合的に行うために必要な事項	26
(1) 河川情報の提供に関する事項	26
(2) 地域や関係機関との連携に関する事項	26

～アユ泳ぐ 自然豊かな 水澄みの 永久に伝えるやすらぎの川音～

三隅川はアユの放流もなされ、地域の重要な水産資源となっている。三隅川の語源である、きれいで澄んだ水の「水澄み」で、アユが泳ぐ自然豊かな河川環境を目指し、過去に甚大な被害を受けた三隅川において、未永く「洪水に対しての安全と水辺でのやすらぎの場」を後世に伝えられるようにと川音に象徴させた。また、「いつまでも水の恩恵を受けられるように」と利水の意味も込めた。

1. 三隅川水系の概要

1.1 流域の概要

三隅川水系はその源を浜田市弥栄町と浜田市金城町界の山脈に発し、途中、矢原川、井川川等の支川を合わせながら流下し、浜田市三隅町市街地を貫流した後、日本海に注いでいます。また、本水系の流域面積は約 230km² で、その流域は浜田市、益田市に属しています。

(地形・地質)

中国山地の配列は、東北 - 南西方向を示し、浜田市三隅町北東部の大森山・漁山等からなる連山と、南西部の源田山・太平山等からなる連山が、いずれも中国山地に向けてその高さを増しながら峰を形成し、これらの連山に挟まれた地域は、丘陵地形を呈し海岸線に至っています。

流域は、河口より半径 15 km ~ 20 km の比較的単純な扇形地形を呈しています。

三隅川流域の地質の基盤をなすものは三郡変成岩であり、下流域は泥質片岩、中上流域は砂質片岩により組成されています。この層は、上部石灰紀から二畳紀にかけて堆積した海成層であり、三隅川流域を中心として東は浜田市東部及び江津市から西は益田市美都町及び益田市の中部まで広く分布しています。岩質がもろく、また風化が進んでいるところから土砂災害の原因ともなっています。

(気候)

南部山間部は北部平野部に比べ降水量が多く、また、流域内の各地における月別降水量は梅雨期から台風期にかけて多くなっている。三隅気象観測所における年平均降水量は 1,720mm 程度(昭和 51 年 ~ 平成 19 年の年平均降水量)、弥栄気象観測所における年平均降水量は 2,200mm 程度(昭和 51 年 ~ 平成 19 年の年平均降水量)、年平均気温は約 12.1 (弥栄気象観測所の昭和 51 ~ 平成 19 年の年平均気温)です。

(自然環境)

本水系の河川環境の特徴は、上流域は西中国山地の急流部に発した後、コナラ群落やコバノミツバツツジ - アカマツ群集が分布する中を流下しており、流域には県の天然記念物に指定されている「長安本郷の八幡宮杉並木」のほか、樹齢百年以上のモミの大木や杉の老木がある「若杉の天然林」があります。また、ヤマネやクマタカ、オオサンショウウオなどの貴重な動物も生息しています。

木都賀ダム上流の河道内は、寄州の形成、ツルヨシ等の繁茂により生物の良好な生息・生育環境を呈しており、貴重種では溪流部にイシドジョウ、カジカカエル等が生息しています。御部ダム下流の河道は蛇行しながら流下し、アユ、ヨシノボリ類等の魚類が生息しています。三隅川発電所近くには「オバガフトコロ」という深い淵があり三隅川の猿猴伝説が残っています。また、支川板井川には名勝として県の指定文化財である「双川峡」が存在します。

中流域はシイ・カシ萌芽林が広く分布し、矢原川と井川川の支川の流入により川幅も広くゆったりとした流れとなっています。流域には樹齢 650 年、樹冠幅約 30m、満開の様子は雪の小山に例えられる「三隅大平桜」^{みすみおおひらざくら}があり国の天然記念物に指定されています。また川沿いには猿猴伝説の残っている西方寺^{さいほうじ}があり、今でも伝説にまつわる品々が大切に保存されています。

下流域は浜田市三隅町の中心市街地となっており、川を見下ろす三隅公園には 5 万本あまりのつつじが植えられ、中国地方随一の規模を誇っています。4 月下旬から 5 月中旬には「つつじ祭」が開かれるとともに、子どもの安全を祈願する「水神祭」^{すいじんさい}が行われています。

中、下流域の河道内は、流路の蛇行により瀬や淵が形成され、水際にはミゾソバやツルヨシ等が繁茂し、河畔の高木林がアオサギの生息地となっています。また、アユやヨシノボリ類等のほか、貴重種のカマキリも生息しています。

河口域にはマガモ等の鳥類が見られ、河口部に形成されている砂州にはハマヒルガオ等の海浜植物が見られる。河道内は感潮域のため、ボラ、スズキ等の汽水魚が生息しています。

三隅川ではアユやヤマメ等の放流が行われているほか、天然アユも多く遡上し地域の重要な水産資源となっており、釣りなども盛んです。

(歴史・文化)

歴史・民俗文化財としては、自然石を組み合わせた横穴式石室のある「大谷古墳」^{おおたに}が存在するほか、南北朝時代にこの地域を勢力下におき、益田市七尾城を拠点とした益田氏と激しい攻防を繰り広げ難攻不落を誇った「三隅城跡」をはじめ三隅氏にゆかりのある神社、寺院等があります。また、石見神楽^{いわみかぐら}の中でも古い形式を伝えその正統を継ぐものといわれる「井野神楽」^{いののかぐら}や、豊作を祈り田の神(さんばいさん)に奉納する「黒沢の囃子田」^{はやし}は県の無形民俗文化財に指定されており、貴重な民俗文化財が現在も継承されています。

(河川環境)

本水系の水質は昭和 58 年から観測が実施されており、環境基準の設定は行われていませんが、近年の BOD75%値は概ね 1.0mg/ℓ で全川を通して良好です。

水利用については、農業用水として約 200ha のかんがいに利用されているほか、益田市において水道用水として利用されています。また水力発電として 3 箇所の発電所により最大 7.2m³/s が利用されています。

河川の利用状況については、上流の御部ダム湖(みやび湖)の周辺にキャンプやスポーツなどが楽しめる「道猿坊公園」^{どうえんぼ}が整備されており、地域住民の散策や憩いの場として親しまれています。

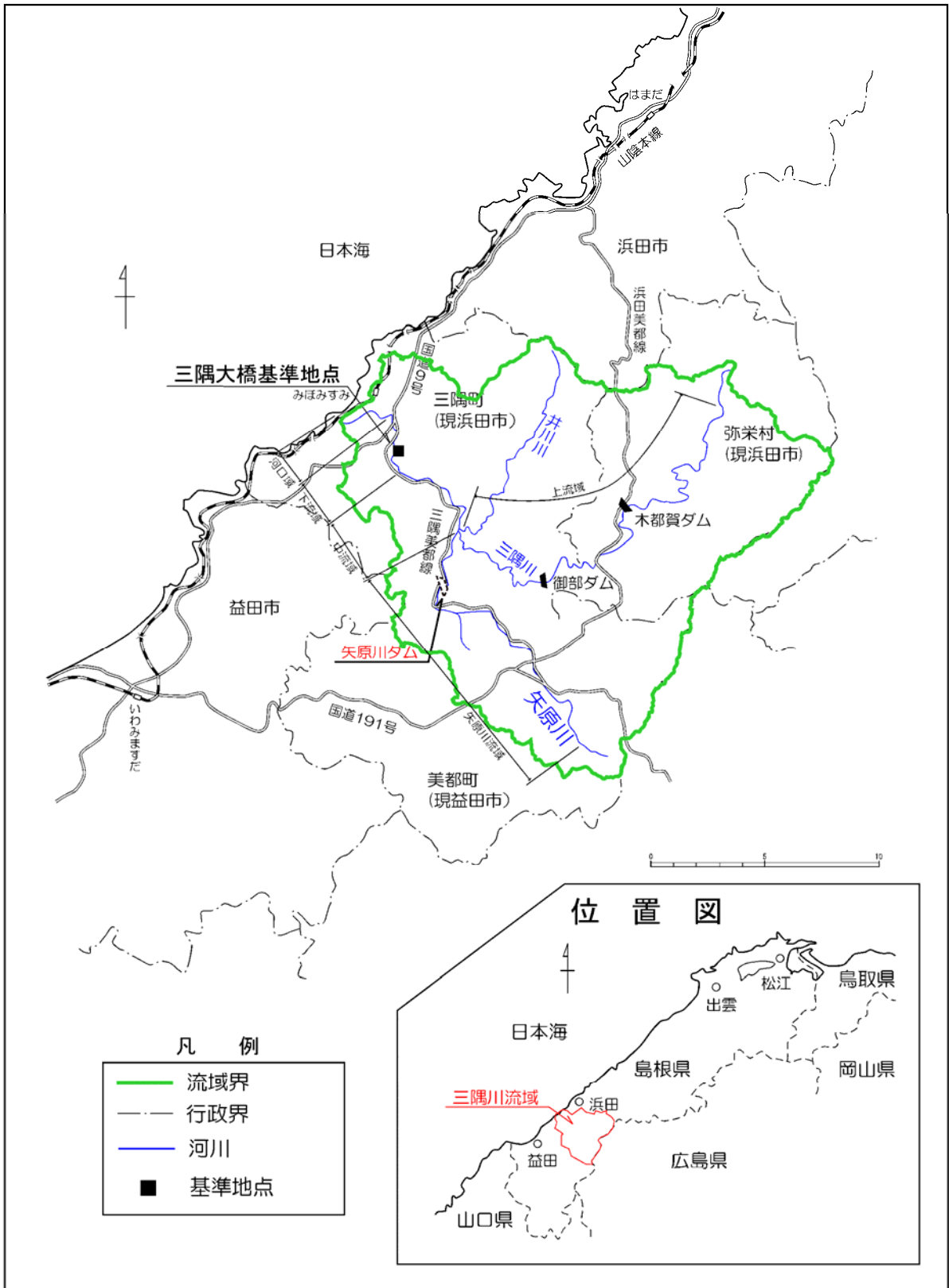


図 1-1 流域概要図

1.2 河川の現状と課題

(1) 治水の現状と課題

三隅川水系は古くから河積が狭小なため、一度洪水になると各所で溢水氾濫し、家屋、道路及び水田の浸水等の被害を受けてきたために、以前から様々な治水対策に取り組んできました。

三隅川水系の治水対策としては、昭和 18～33 年の連続災害を契機として昭和 34 年から浜田市弥栄町大字木都賀に砂防ダムを建設し、昭和 36 年にこれを完成させるとともに、その後も昭和 37、40 年と被災し、昭和 44 年度には河口部の河川局部改良工事を実施しました。さらに、昭和 47 年 7 月には梅雨末期の集中豪雨により多大な災害に見舞われたため、災害による暫定的な河川改修事業を実施した後に、昭和 53 年より河川改修事業により三隅大橋から河口までの間の掘削、築堤、護岸等を実施し、昭和 56 年には御部ダムの建設に着手しました。しかし、昭和 58 年 7 月の梅雨前線豪雨では総雨量が 500mm を超え、計画規模を上回る出水となり、三隅町全体で死者 33 名、流域で被災家屋 2,562 棟の甚大な被害を被りました。

このため昭和 62 年 11 月に三隅川水系工事実施基本計画の改定がなされ、さらにその後の降雨資料を加えて治水安全度を検討した結果、基準点（三隅大橋）での基本高水のピーク流量 2,440m³/s、計画高水流量 1,600m³/s とし、840m³/s を御部ダム（平成 2 年完成）と矢原川ダムで調節することとしました。三隅川下流の三隅町市街地においては河道沿川に宅地が密集しており、河道拡幅による改修では用地の確保が極めて困難であり、また生活基盤の崩壊の恐れがあることから、ダムによる洪水調節が最も意義があり、且つ経済的です。

現状では、昭和 58 年 7 月豪雨に相当する概ね 100 年に 1 回程度の確率で発生する大雨による洪水に対して河道の流下能力が不足しているため、治水対策の早期完了が課題となっています。

過去の主要な洪水と被害状況を表 1-1 に示します。

表 1-1 過去の主要な洪水とその被害

原因（年月）	家屋被害				農地 浸水 (ha)	人的被害			被害額		日雨量 (mm)
	床上 浸水 (戸)	床下 浸水 (戸)	全壊 (戸)	半壊 (戸)		死者 (人)	重軽傷 (人)	行方 不明 (人)	一般 (百万円)	公共 (百万円)	
S40. 7（梅雨前線豪雨）	0	176	0	109	115	1	1	0	118	57	234.2
S47. 7（梅雨前線豪雨）	545	293	70	0	396	1	6	0	696	594	267.4
S58. 7（梅雨前線豪雨）	895	131	749	305	646	33	33	0	18,975	9,596	365.8
S60. 7（梅雨前線豪雨）	292	247	7	111	271	0	5	0	3,333	1,568	298.2
S63. 7（梅雨前線豪雨）	48	272	6	8	338	0	0	1	501	307	289.3
H07. 8（梅雨前線豪雨）	4	35	0	0	5	0	0	0	17	115	141.9
H09. 7（梅雨前線豪雨）	1	3	0	0	0	0	0	0	44	0	93.4
H09. 7（台風 9 号）	1	3	0	0	0	0	0	0	37	0	333.6

出典：水害統計(国土交通省河川局)
 災害年報(島根県)
 昭和40年7月豪雨災害状況書(島根県防災会議)
 昭和47年7月豪雨災害誌(島根県)



写真-1 昭和58年7月豪雨時の被災状況

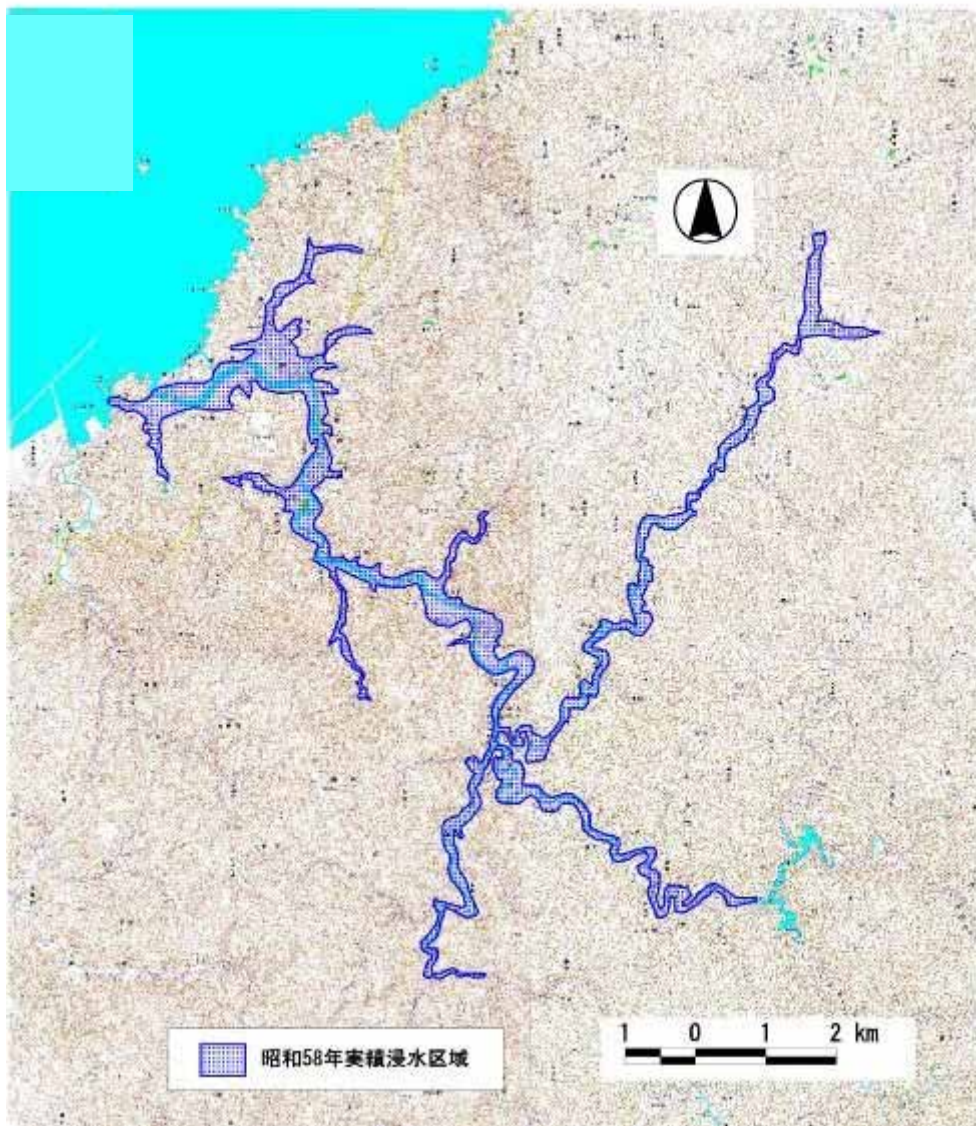


図 1-2 氾濫区域図

(2) 利水の現状と課題

三隅川流域では、過去には昭和 53 年、昭和 57 年に渇水被害がありましたが、全国的に渇水に見舞われた平成 6 年の異常渇水時には各自治体による節水対策の徹底などにより取水障害は発生しませんでした。

三隅川本川では許可水利として、農業用水 0.2011m³/s (5 件)、三隅川発電所及び御部発電所の発電用水 6.700m³/s の水利用がなされ、他に慣行水利として農業用水 8 件に水利用がなされています。また、矢原川では許可水利として、農業用水 0.0957m³/s(5 件)、矢原川発電所の発電用水 0.5m³/s および益田市美都町二川地区の簡易水道 0.0009m³/s の水利用がなされ、慣行水利として農業用水 6 件の水利用がなされています。

利水基準点の三隅大橋地点における昭和 43 年から平成 18 年までの 39 カ年平均の流況を表 1-2 に示します。三隅大橋地点における平均渇水流量は 2.96m³/s です。また、概ね 10 年に 1 回程度発生する渇水時の流量は 1.43m³/s です。

なお、三隅大橋地点の流量は木都賀ダム地点実測流量を用いた水収支計算により算出して記載しています。

表 1-2 流況(日平均流量)

	豊水	平水	低水	渇水	最小	流域面積
三隅大橋地点	11.39	7.50	5.19	2.96	2.14	214.5 km ²
豊水：1年を通じて95日はこれを下らない流量 平水：1年を通じて185日はこれを下らない流量 低水：1年を通じて275日はこれを下らない流量 渇水：1年を通じて355日はこれを下らない流量 最小：1年を通じて最小の流量 年平均：日平均流量の1年の総計を当年日数で除した流量						

(昭和 43 年から平成 18 年の平均)

表 1-3 発電用水

河川名	発電所名	発電型式 (ダム名)	出力 (kW)		使用水量(m ³ /s)	
			最大	常時	最大	常時
三隅川	御部	利水従属式・ダム式 (御部ダム)	460	142	2.00	1.02
三隅川	三隅川発電所	ダム水路式 (木都賀ダム)	7,400	2,000	4.70	1.58
矢原川	矢原川	水路式	100	70	0.50	0.38

表 1-4 水道用水

河川名	用水名	管理者	取水量	備考
矢原川	二川地区簡易水道	益田市	0.0009 m ³ /s (78.3 m ³ /日)	堀河頭首工より 通年取水

表 1-5 農業用水一覧表

河川名	区間	ダム 補給	施設名		法慣	受益面積 (ha)	用水量 (m ³ /s)					
							代かき期	代掻最大用水量	普通期	普通期用水量		
三 隅 川	木都智ダム上流		竹添用水	左	慣	5.20	4/10-4/15	0.0354	4/16-10/10	0.0212		
			小原頭首工	左	慣	2.16		0.0147		0.0088		
			山根前堰	右	慣	1.00		0.0068		0.0041		
			大元堰	左	慣	3.54		0.0241		0.0145		
			たずのき揚水機	左	法	1.12		0.0092		0.0055		
			上ミ畑用水	左	慣	0.70		0.0048		0.0029		
			新畑頭首工	右	慣	1.00		0.0068		0.0041		
			飯田用水	左	慣	2.50		0.0170		0.0102		
			小計					17.22		0.1188	0.0713	
	御下部ダム流		笹ヶ瀬頭首工	右	慣	1.20	4/5-4/20	0.0029	4/21-9/10	0.0036		
			下古和本郷堰	左	法	21.30	4/26-5/10	0.0524	4/10-9/20	0.0632		
			小計			22.50		0.0553		0.0668		
	矢流原川下合流		西方寺原揚水機場	左	法	32.42	4/19-5/10	0.0696	4/10-9/20	0.0962		
			岡崎用水路	右	法	5.96	5/7-5/10	0.0309	5/1-9/20	0.0177		
			上古市, 下古市場揚水機場	左	法	20.01	5/1-5/31	0.0390	4/1-9/20	0.0594		
			小計			58.39		0.1395		0.1733		
矢 原 川	ダムサイト上流		堀河頭首工	右	法	1.10	4/20-5/15	0.0121	5/16-8/31	0.0045		
			油免頭首工	左	慣	4.00	4/20-5/15	0.0106	5/16-9/7	0.0120		
			向井原頭首工	左	慣	2.50		0.0066		0.0075		
			みどりや沖頭首工	右	慣	0.70		0.0019		0.0021		
			明ヶ添頭首工	左	慣	4.20		0.0112		0.0126		
			又六頭首工	左	慣	1.22		0.0032		0.0037		
			松尾谷頭首工	右	慣	0.20		0.0005		0.0006		
			梅ノ木頭首工	左	法	1.20		5/10		0.0196	5/1-9/20	0.0036
			田中頭首工	右	法	2.50		5/9-5/10		0.0223		0.0074
		小計			17.62	12.82		0.0889		0.0548		
	ダ下ム流		権現頭首工	右	法	5.30	5/7-5/10	0.0275	5/1-9/20	0.0157		
			舟原井堰	右	法	1.60	5/9-5/10	0.0142		0.0047		
		小計			6.90		0.0417	0.0205				

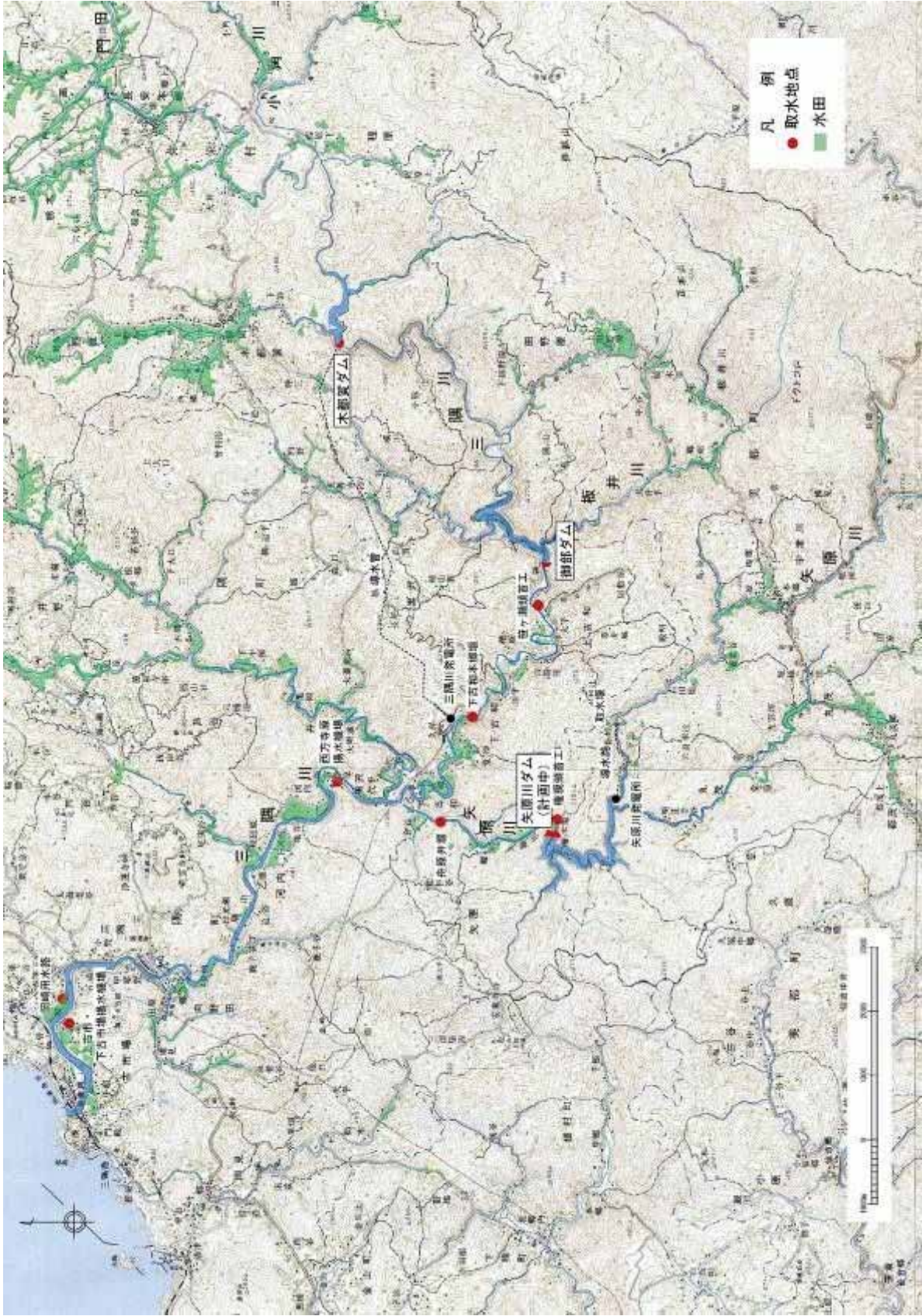


図 1-3 取水施設位置図(ダム補給分)

(3) 河川環境の現状と課題

河川の自然環境

三隅川水系には生活環境の保全に関する環境基準点は設定されていません。水質観測が行われている三隅大橋地点および倉谷橋地点の BOD(75%値)は、環境基準の AA 類型相当である 1mg/l 程度を推移しており、水質は良好であるといえます。

BOD(75%値)の推移を図 1-4 に示します。

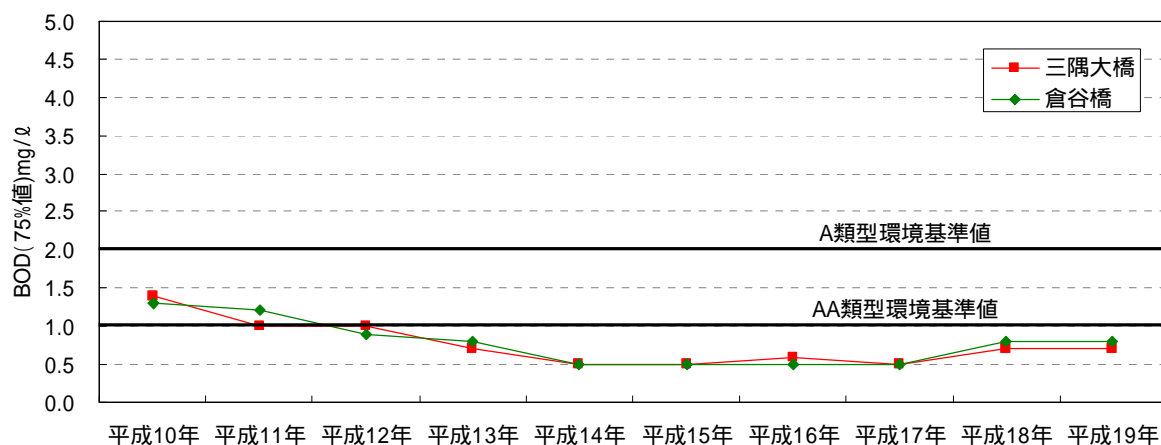


図 1-4 BOD(75%値)[生物化学的酸素要求量]の推移

河川状況等

【河口域】

道正橋より下流の河口域は平地が広がり民家が点在しています。

河道はコンクリート護岸で整備されています。

川幅は 100～120m と広く、河床勾配は約 1/1,000 の緩勾配でゆったりした流れとなっています。河床材料は砂利、砂質で構成されています。

河道内は汽水域となっているため、マハゼ、セイゴ、チチブ等が生息しており、砂州にはハマヒルガオ等の海浜植物が見られ、シロチドリ、イソシギ等の休息場となっています。



上古市橋より下流

道正橋より下流



【下流域】

道正橋から鹿子谷川合流点までの下流域は、国道 9 号に面した浜田市三隅町の中心部であり家屋が集中しています。

河道は兩岸ともコンクリート護岸で整備されています。

川幅は 100m 程度と広く、河床勾配は 1/1,000～1/600 で緩やかな流れとなっており、湾曲部には州が発達しています。河床材料は砂礫から構成されています。

河道内は湾曲部の淵にメダカが、平瀬にはカマキリが生息しており、アユの産卵場所も複数確認されています。河畔の竹林はアオサギの生息地となっており、河原にはタコノアシが生息しています。



新三隅大橋より上流

杉の森橋より上流



【中流域】

鹿子谷川合流点から矢原川合流点までの中流域は、河川沿いを県道が通っており、主に山地で段丘面を利用した水田が点在しています。

河道は兩岸ともコンクリート護岸で整備されています。

川幅は 70～100m 程度で、河床勾配は 1/600～1/400 となっています。河床材料は砂礫から構成されています。

河道内は水際にミゾソバ、ツルヨシが繁茂しており緩やかな流れの場所にメダカが生息しています。また、アオサギ等が山付部の高木林をねぐらとしています。



用田橋より上流

西方寺橋より上流



【上流域】

矢原川合流点より上流の上流域は、民家、水田が点在しており、三隅川発電所より上流は山地が迫っています。

河道は御部ダム下流は兩岸ともコンクリート護岸で整備されており、木都賀ダム上流については部分的にコンクリート護岸で整備されています。

川幅は 20～70m 程度で、河床勾配は 1/400～1/80 と急勾配となっています。河床材料は主に礫で、御部ダムより上流では岩の露頭、転石が見られます。

河道内では樹木が張り出した木陰にヤマメが生息しています。また溪流部ではゴギ、カジカ、オオサンショウウオ等の貴重種が確認されています。

御部ダムの貯水池周辺には公園が整備され、キャンプ、スポーツ等に利用されています。



沼原橋より下流

御部ダム



【矢原川】

矢原川流域は、山地地形であり、段丘面を利用して水田耕作が行われています。

河道は、丸茂川合流点より下流についてはコンクリート護岸で、丸茂川合流点より上流については一部道路沿いにコンクリート護岸が見られますが、大部分は山付けとなっています。

川幅は 20～40m と狭く、河床勾配は 1/210～1/60 と急勾配となっています。河床材料は礫や岩盤で、上流には巨石が見られます。

河道内は、溪流部にイシドジョウ、カジカ、オオヨシノボリ、オオサンショウウオなどの貴重種が生息しています。



出合橋より上流

矢板橋下流



河川に生息する主な生き物

近年、河川は多くの生き物が生息・生育する場、潤いを与える場としての役目が再認識され、注目されています。

三隅川、矢原川で現地調査および文献調査で確認された主な生き物は以下に示すとおりです。

表 1-5 三隅川、矢原川で確認できる主な生き物

分類	主な生き物 生息地域				
	河口域	下流域	中流域	上流域	矢原川
植物	ハマビルガオ、オオハコ、ヨモギ、エキノコグサ、ヤナギ類、サンヨウアオイ(島NT)、ヒトモトスギ(島NT)、ヘラネ(島NT)、ノシラン(島NT)	ヨモギ、ヤブマオ、ミソソバ、アメリカセンダングサ、ヤナギ類、クノアジ(国NT島VU)	チカラシバ、ミソソバ、ツルヨシ、ヒヨドリバナ、ホタルイ、カラヨモギ、ヨモギ、ヤブマオ、ウラギク、ウス、アレチノギク類、ヤナギ類、ナシダ(島NT)	ヨモギ、ミソソバ、アメリカセンダングサ、アレチノギク類、マタビ、カラヤツメ、ノハラ、ヤナギ類、ネムノキ河辺林、ミドリ(国NT島NT)	セイタカアワダチソウ、マタビ、ミソソバ、コンノギク、ツルヨシ、ヒメムカシヨモギ、クサマオ、チカラシバ、ヤブマオ、ウラギク、ヤブガラシ、カラヨモギ、マコモ、アカマツ、スキ・ヒネ、アラクシ、アカマツ、ネムノキ、アカメガシラ、コナラ、エビネ属の一種(国NT島VU)、カンアオイ属の一種(国NT)、サンヨウアオイ(島NT)、ナツエビネ(国VU島VU)、タキシタ(国EN島CR+EN)、マルバノサトウガラシ(国VU)、ウチワコケ(島VU)、ヒメサザラン(島NT)、コジキイチゴ(島NT)、シャクジョウソウ(島DD)、ヒメハナリ(島VU)、サルメンエビネ(国EN島CR+EN)
魚類	ウグイ、ホラ、セイゴ、マハセ、チチブ、クサヅク、シロウオ、メダカ(国VU)、カラヤツメ(国VU島VU)、イトヨ(国Lp島VU)	アユ、セイゴ、ウグイ、カマツカ、コイ、チチブ、コクラハセ、ウキコリ、カワムツ、カヨシノホリ、スミウキコリ、メダカ(国VU)、カラヤツメ(国VU島VU)、スナヤツメ(国VU島VU)、カマキリ(国VU島NT)	アユ、ウグイ、オイカワ、カマツカ、コイ、キンブナ、キギ、シマヨシノホリ、コクラハセ、コイ、ヌマチチブ、メダカ(国VU)、カラヤツメ(国VU島VU)、イシドジョウ(国EN島VU)、オオヨシノホリ(島NT)、スナヤツメ(国VU島VU)、カマキリ(国VU島NT)、カシカ(島VU)	アユ、ウグイ、オイカワ、カマツカ、カワムツ、キンブナ、ヤマメ、コイ、キギ、カヨシノホリ、ドンコ、カラヤツメ(国VU島VU)、イシドジョウ(国EN島VU)、オオヨシノホリ(島NT)、スナヤツメ(国VU島VU)、アカザ(国VU島NT)、カシカ(島VU)、コギ(国VU島CR+EN)	アユ、ウグイ、タカハヤ、オイカワ、カワムツ、キギ、チチブ、シマヨシノホリ、カヨシノホリ、ウキコリ、カシカ(小卵型)(国EN島VU)、カマキリ(国VU島VU)、オオヨシノホリ(島NT)、イシドジョウ(国EN島VU)
哺乳類、両生類、爬虫類、昆虫類	キンイチョモンシセリ(国NT島VU)、ルビシヤンマ(島NT)	タガメ(国VU島VU)、ウラナミシヤンマ(国VU島CR+EN)、ネアカヨシヤンマ(国NT島NT)、マイコアカネ(島CR+EN)		ハツチョウトンボ(島NT)、ホンドモモンガ(島VU)、オオサンショウウオ(国VU島VU)、カシカガエル(島NT)、ニホンヤマネ(国NT島VU)	カナヘビ、トリアカガエル(島NT)、カシカガエル(島NT)、オオサンショウウオ(国VU島VU)、コイムシ(国NT島CR+EN)、タガメ(国VU島VU)、オオカワトンボ(島NT)、イナゴ属の一種(島NT)、ツマクシ(島VU)、ツキノクワ(国Lp島CR+EN)、ヤマネ(国NT島VU)、キクガシラコエリ(島NT)、シムケリ(島NT)、タコガエル(島NT)、ホリスイトンボ(島NT)、アオサナエ(島NT)、ヒメアサギ(島NT)、クワムシ(島NT)、キボシマルウシ(島DD)、ムネアカアワガキ(島DD)、ヤマトタムシ(島DD)、トラフホソバネガキ(島DD)、ウラギンズジヒョウモン(国NT島VU)、メスクロヒョウモン(島VU)、クモガタヒョウモン(島VU)、ナカシシヤチホコ(島DD)、エゾクシヒゲシヤチホコ(島DD)、ウスロキシタル(島NT)、スジクロチャルネセリ(国NT島DD)、オオチャルネセリ(島DD)、ヒゲナガサシガメ(島DD)、オオメダカガカムシ(島DD)、オオメダラタムシ(島DD)
鳥類	アオサギ、マガモ、カワアイサ、トビ、シロチドリ、イソシギ、セグロカモメ、ウミネコ、コゲラ、イワツバメ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、ホオジロ、カラビロ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ミサゴ(国NT島VU)	アオサギ、マガモ、トビ、ツバメ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、ジョウビタキ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、ホオジロ、カラビロ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ミサゴ(国NT島VU)	タイサギ、アオサギ、トビ、ヒヨドリ、ウグイス、ムクドリ、セグロセキレイ、タヒバリ、ヤマガラ、ホオジロ、ハシボソガラス、ハシタカ(国NT島CR+EN)、オオタカ(国NT島CR+EN)	トビ、コゲラ、キセキレイ、ヒヨドリ、ミサザイ、ウグイス、メジロ、ホオジロ、アオジ、カラビロ、ハシボソガラス、エナガ、ヤマガラス、アオサギ、タシギ、キジハト、セグロセキレイ、カワガラス、ツグミ、シジュウカラ、ミヤマホオジロ、トビ、ジョウビタキ、サンコウチョウ(島NT)、サシハ(国VU島CR+EN)、クマタカ(国EN島CR+EN)	トビ、コゲラ、キセキレイ、ヒヨドリ、ミサザイ、ウグイス、ヤマガラス、メジロ、ホオジロ、アオジ、カラビロ、ハシボソガラス、エナガ、ヤマガラス、アオサギ、タシギ、キジハト、セグロセキレイ、カワガラス、ツグミ、シジュウカラ、ミヤマホオジロ、トビ、ジョウビタキ、サンコウチョウ(島NT)、サシハ(国VU島CR+EN)、クマタカ(国EN島CR+EN)

[凡例1] 国：環境省レッドリスト(鳥類、爬虫類、両生類は平成18年12月公表版、哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、植物は平成19年8月公表版) 島：しまねレッドデータブック(平成16年3月改訂版)

[凡例2] CR：絶滅危惧IA類、EN：絶滅危惧IB類、CR+EN：絶滅危惧I類、VU：絶滅危惧II類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足

河川の空間利用

御部ダムの貯水池(みやび湖)周辺にはピクニック広場等がある道猿坊公園をはじめ、さくらの広場等の小公園などが整備されています。また、みやび湖健康ウォークなどのイベントも開催されており、地域と密着した空間を形成しています。

矢原川上流には地域を代表する「美都温泉」があり、河川事業と連携した周辺環境整備が行われています。

表 1-6 河川に関するイベント

区分	町村名	河川名	名称	期日	主催	概要
イベント	浜田市 弥栄町	三隅川		5月	実行委員会	ヤマメ、アユの放流が行われている。
	"	"	キャンプ	-	実行委員会	御部ダム周辺公園として、キャンプ場、遊具などが設置され、テニス・ゲートボールなども楽しめる。  道猿坊公園
	"	"	トライアル大会	-	実行委員会	年1回道猿坊公園で開催される。
	"	"	みやび湖マラソン	-	実行委員会	みやび湖周辺道路を利用したマラソン及びウォーキング
	益田市 美都町	矢原川	温泉祭	5月	実行委員会	年1回温泉広場で開催される。
	"	"	蛸祭	6月	実行委員会	年1回温泉広場で開催される。
	"	板井川	十七夜祭	7月	自治会	年1回、双川峡で開催される。

2. 河川整備計画の目標に関する事項

2.1 河川整備計画の対象期間及び区間

本河川整備計画は、三隅川水系河川整備基本方針に則した河川整備の当面の課題であり、その対象期間は概ね 20 年とします。

計画対象期間: 概ね 20 年間

三隅川水系河川整備計画における対象区間は表 2-1、図 2-1 に示すとおり、島根県知事管理河川区間の全てです。

表 2-1 対象区間一覧

河川名	対象区間	延長
みすみ川	上流端：(左岸)那賀郡安城村 栃木川落合 (右岸)那賀郡安城村 栃木川落合 下流端：海に至る	40.86km
みすみ川放水路	上流端：三隅川からの分派点 下流端：海に至る	0.46km
やまだ川	上流端：(左岸)三隅町大字古市場 924 番 2 地先 (右岸)三隅町大字古市場 918 番地先 下流端：三隅川との合流点	0.13km
やまだ川放水路	上流端：山田川からの分派点 下流端：海に至る	0.25km
ほそだ川	上流端：(左岸)三隅町大字折居字竹ンチ 791 番地先 (右岸)三隅町大字折居字代の前 695 番の 1 地先 下流端：三隅川への合流点	2.84km
ほそだ川放水路	上流端：細田川からの分派点 下流端：海に至る	0.82km
いしだ川	上流端：(左岸)三隅町大字三隅 35 番地先 (右岸)三隅町大字三隅 35 番地先 下流端：三隅川への合流点	1.58km
かみ観音川	上流端：(左岸)三隅町大字三隅 1,539 番 7 地先 (右岸)三隅町大字三隅 1,537 番 4 地先 下流端：三隅川への合流点	0.41km
たばら川	上流端：(左岸)三隅町大字向田字後力溢 738 番の 1 地先 (右岸)三隅町大字向田字鈿力迫 736 番地先 下流端：三隅川への合流点	1.95km
しかご谷川	上流端：(左岸)三隅町大字河内字市木田 151 番地先 (右岸)三隅町大字河内字小畑 1,446 番地先 下流端：三隅川への合流点	2.20km
い井川	上流端：(左岸)井野村大字井野 1,240 番地 (右岸)井野村大字井野 762 番地 下流端：三隅川への合流点	14.38km
やばら川	上流端：(左岸)美都町大字宇津川字ホウリノハの 1,438 番地 (右岸)美都町大字宇津川字馬の瀬 8 の 929 番地 下流端：三隅川への合流点	16.74km
まる丸茂川	上流端：美都町大字丸茂字松田 1,009 番の 3 地先の田原橋 下流端：矢原川への合流点	6.80km
いば井川	上流端：戸城川の合流点 下流端：三隅川への合流点	4.21km
ほん郷川	上流端：(左岸)那賀郡杵束村大字野坂字木部賀木本 540 番地 (右岸)那賀郡杵束村大字野坂字平田 538 番地 下流端：三隅川への合流点	4.66km

)対象区間の地先については、県報告示に記載される地先を記載しています。

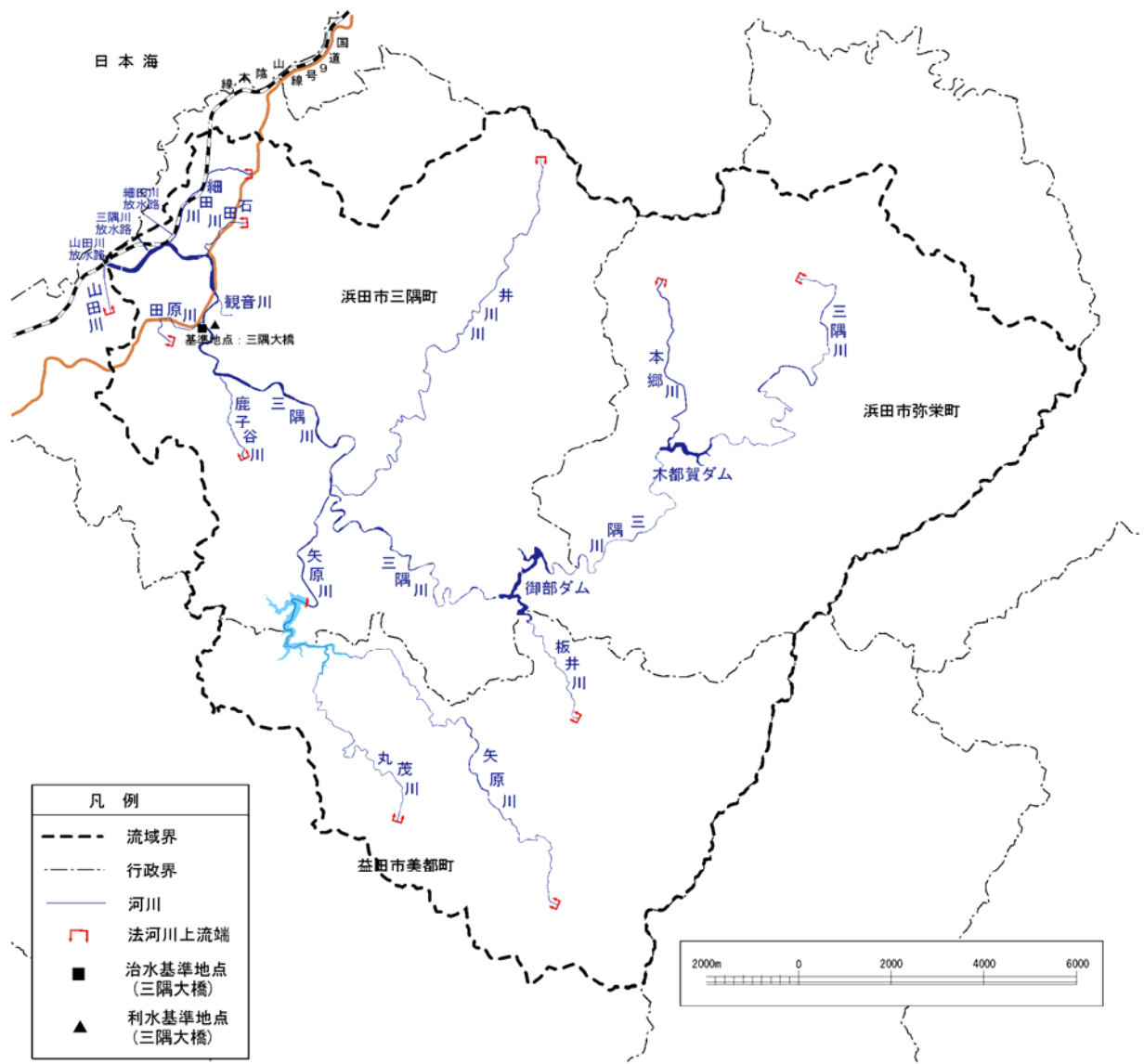


図 2-1 対象区間位置図

2.2 洪水による災害の発生防止又は軽減に関する目標

災害の発生防止又は被害の軽減に関しては、既往最大の昭和58年7月の降雨に相当する概ね100年に1回程度発生する降雨による洪水が発生した場合も、基準地点三隅大橋における洪水流量を低減することにより、洪水氾濫から人命や資産を守ります。

また、整備途上段階での施設能力以上の洪水や計画規模を上回る洪水に対しても被害を最小限に食い止めるため、防災ハザードマップ¹⁾の支援や防災訓練への住民参加等により災害時のみならず平常時から防災意識の向上を図るとともに、河川水位や雨量情報の提供、水防活動との連携、情報伝達体制及び警戒避難体制の整備、土地利用計画との調整等、総合的な被害軽減対策を関係機関、自主防災組織²⁾、地域住民等と協力して推進します。

1)防災ハザードマップ:洪水や土砂災害などの災害発生が予想される危険区域を示した地図の総称。

2)自主防災組織:地域住民の自衛意識と連帯感に基づいて自主的に結成される組織であり、日頃から住民への防災知識の普及・啓発、防災訓練の実施など災害に対する備えを行い、また災害発生時における情報の収集・伝達、被災者の救出・救護等の活動を行う。現在、三隅川流域では、「向野田郷自治会自主防災会」が結成されている。

2.3 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標

概ね10年に1回程度発生する渇水時においても、流水の正常な機能の維持のために必要な流量を確保します。流水の正常な機能の維持のために必要な流量は、流水の占用、流水の清潔の保持、動植物の生息地または生育地の状況、既得取水の安定化等を考慮した上で、三隅大橋地点において、4月から5月及び9月下旬から11月中旬は概ね2.5m³/s、その他の期間は概ね1.0m³/sとします。

さらに、渇水等発生時における情報提供、情報伝達体制の整備を関係機関及び水利使用者等と連携して推進します。

また、今後、新たな水需要が生じた場合には、関係機関及び水利使用者と調整を行い、水資源の合理的かつ有効な利用の促進を図ります。

2.4 河川環境の整備と保全に関する目標

河川環境の整備と保全に関しては、過去に激甚な水害に見舞われ、災害復旧工事などを施してきた歴史や、猿猴伝説や「水神祭」などの文化が継承された歴史に配慮するとともに、貴重な生物や、貴重な水産資源となっているアユ等の生息環境を保全します。

上流域においては、イシドジョウ、オオサンショウウオ、カジカガエル等が生息する清流環境に配慮し、河岸の植生や瀬・淵の保全に努めます。御部ダム湖（みやび湖）については、良好な水辺環境を保全します。中流部から河口域においては、災害復旧後、寄州、瀬、淵、水際の植生も復元されてきたものの、今後更に魚類に配慮した瀬・淵の保全や、アユ等の移動に配慮した河道の連続性の確保を図るとともに、アユの産卵床の保全に努めます。

矢原川ダムの建設に当っては環境影響評価による調査、予測を反映し、動植物の生息・生育環境の保全に努めます。

3. 河川整備の実施に関する事項

3.1 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

三隅川においては、昭和 58 年 7 月降雨に相当する概ね 100 年に 1 回程度発生する降雨による洪水氾濫から家屋及び市街地等の浸水被害を防ぐことを目的とし、河道改修および三隅川放水路の建設が実施され平成元年に完成しており、また昭和 54 年に着手していた御部ダムが平成 2 年に完成しています。

しかしながら、現状では河道の流下能力が不足しているため、矢原川ダムを早期建設することにより、洪水の安全な流下を図ります。

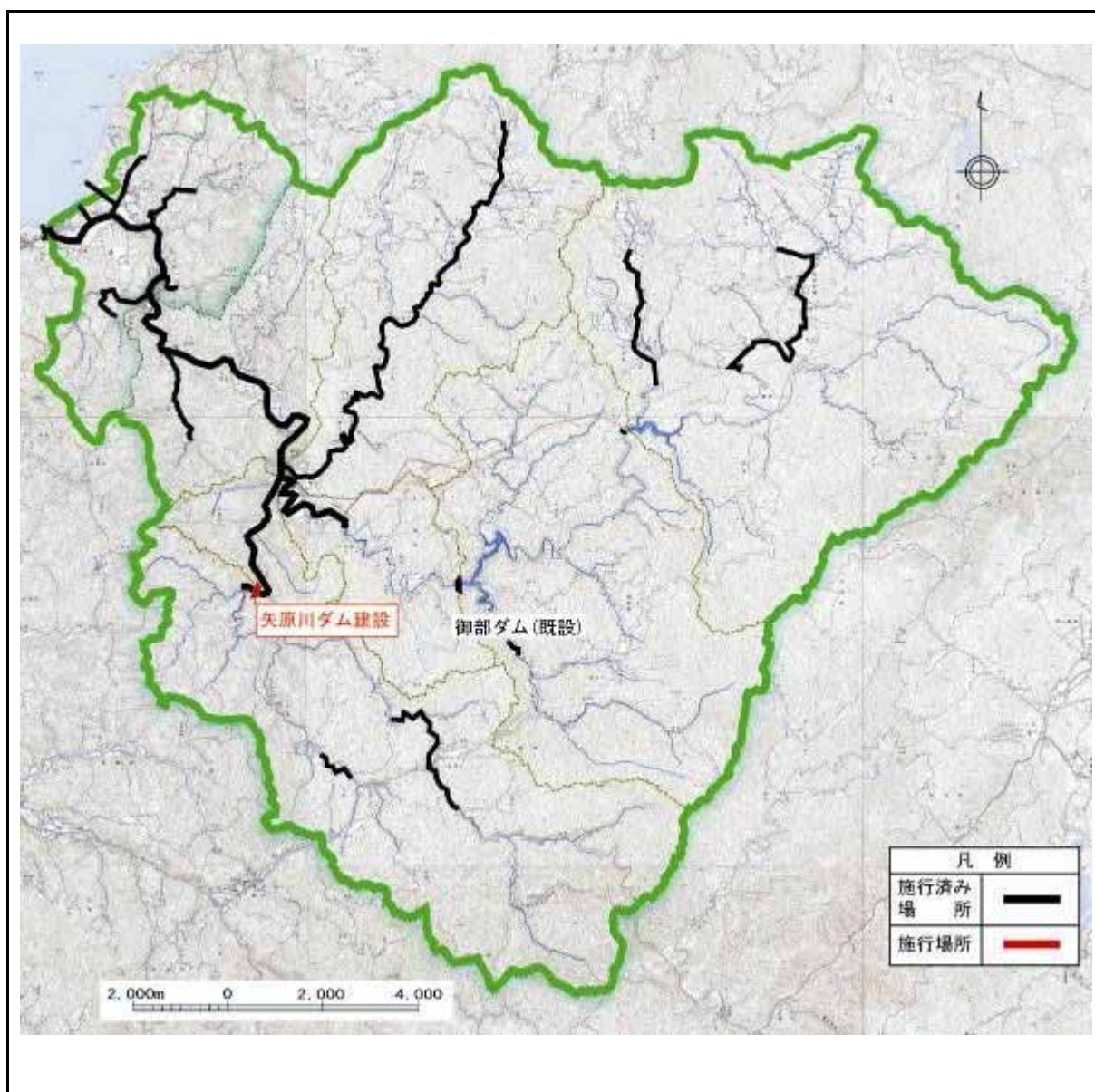
なお、河川整備の実施にあたっては、自然環境や周辺景観に十分配慮し、必要に応じて学識経験者、地域住民等と調整します。

(1) 施行区間及び種類

河川工事を実施する施行の場所及び種類は表 3-1 のとおりです。

表 3-1 施行の場所及び河川工事の種類

施行の場所	河川工事の種類
浜田市三隅町矢原地内	矢原川ダム建設



(2) 整備目標流量

施行区間の整備目標流量を以下に示します。

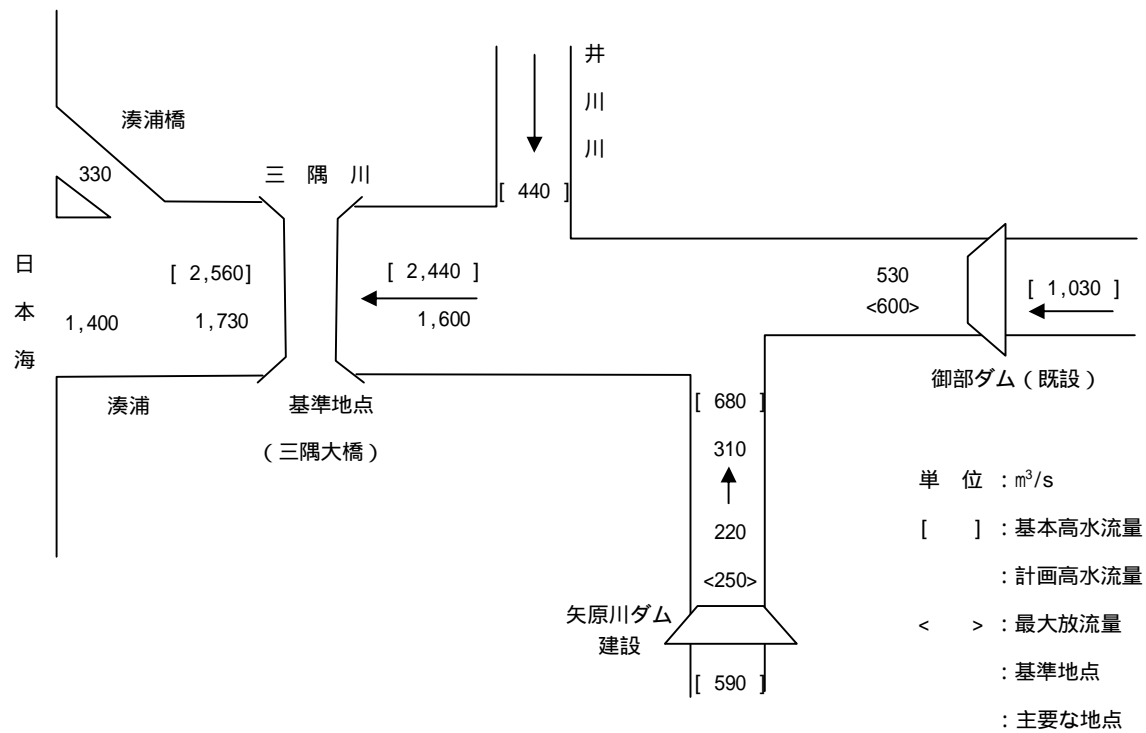


図 3-2 流量配分図

(3) 整備内容

矢原川ダム建設により洪水調節を行います。

洪水調節を行う計画規模は、概ね 100 年に 1 回程度の確率で発生する洪水に対応するものです。基準地点三隅大橋における洪水流量を、既設の御部ダムおよび矢原川ダムにより洪水調節を行い、 $2,440\text{m}^3/\text{s}$ から $1,600\text{m}^3/\text{s}$ に低減することにより、過去の洪水氾濫により浸水被害を受けた浜田市三隅町市街地を洪水氾濫から守ります。

矢原川ダムの機能の概要は表 3-2 のとおりです。

表 3-2 機能の概要

項目	矢原川ダム建設
目的	洪水調節
型式	重力式コンクリートダム
堤高	約 51m
堤頂長	約 226m
湛水面積	約 0.42km^2
総貯水容量	約 $7,000,000\text{m}^3$
有効貯水容量	約 $6,700,000\text{m}^3$
サーチャージ水位	E.L. 約 88m

矢原川ダム建設の容量配分図、平面図及び標準横断面図を図 3-3(1) ~ (3)に示します。

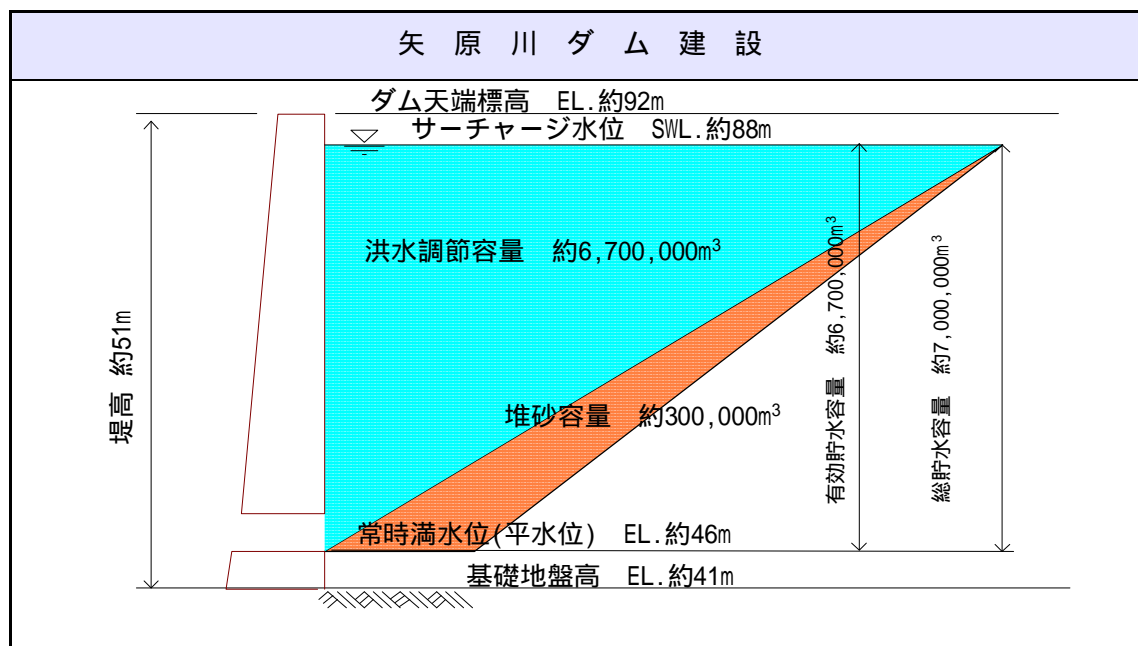


図 3-3(1) 容量配分図

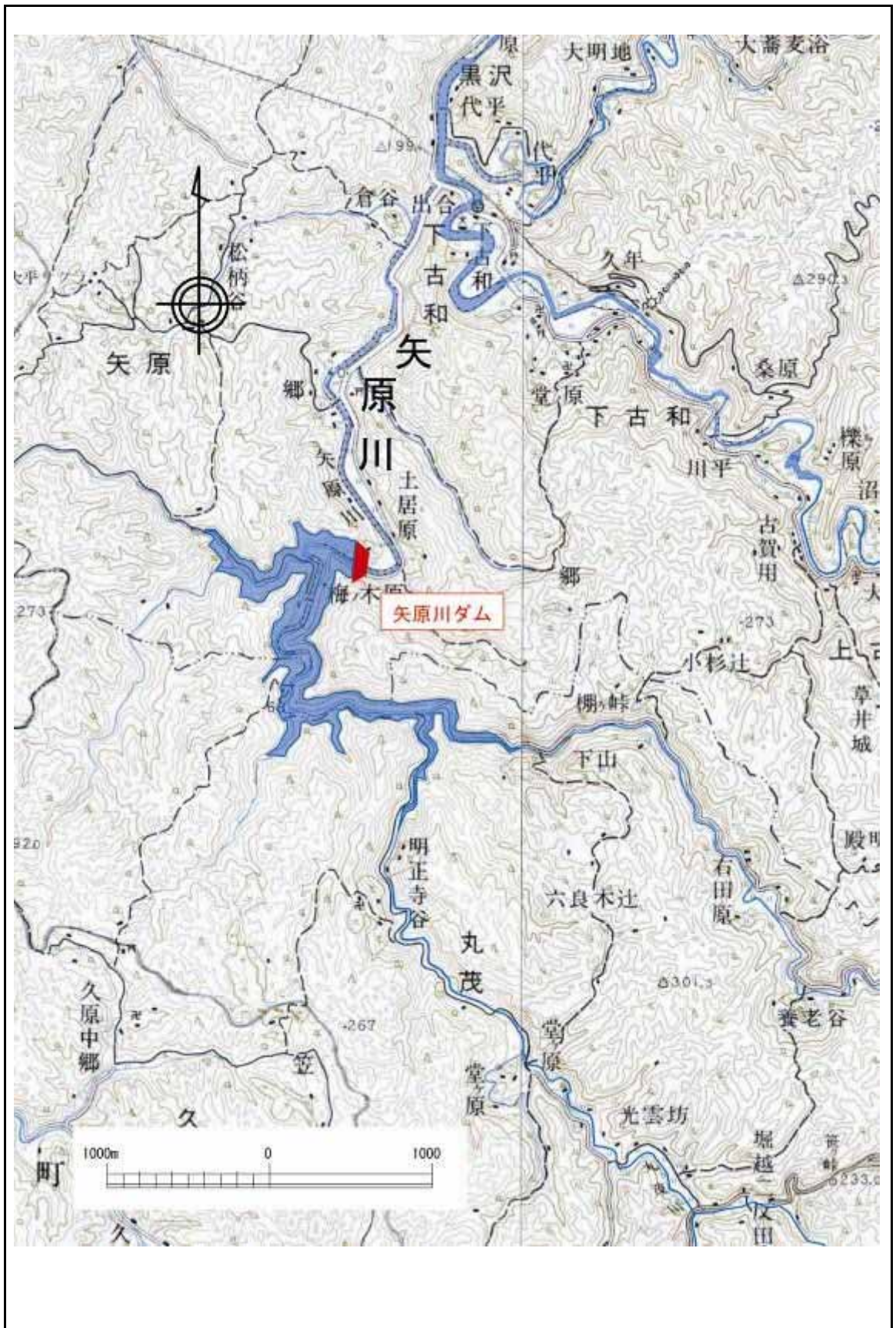


図 3-3(2) 矢原川ダム建設平面図

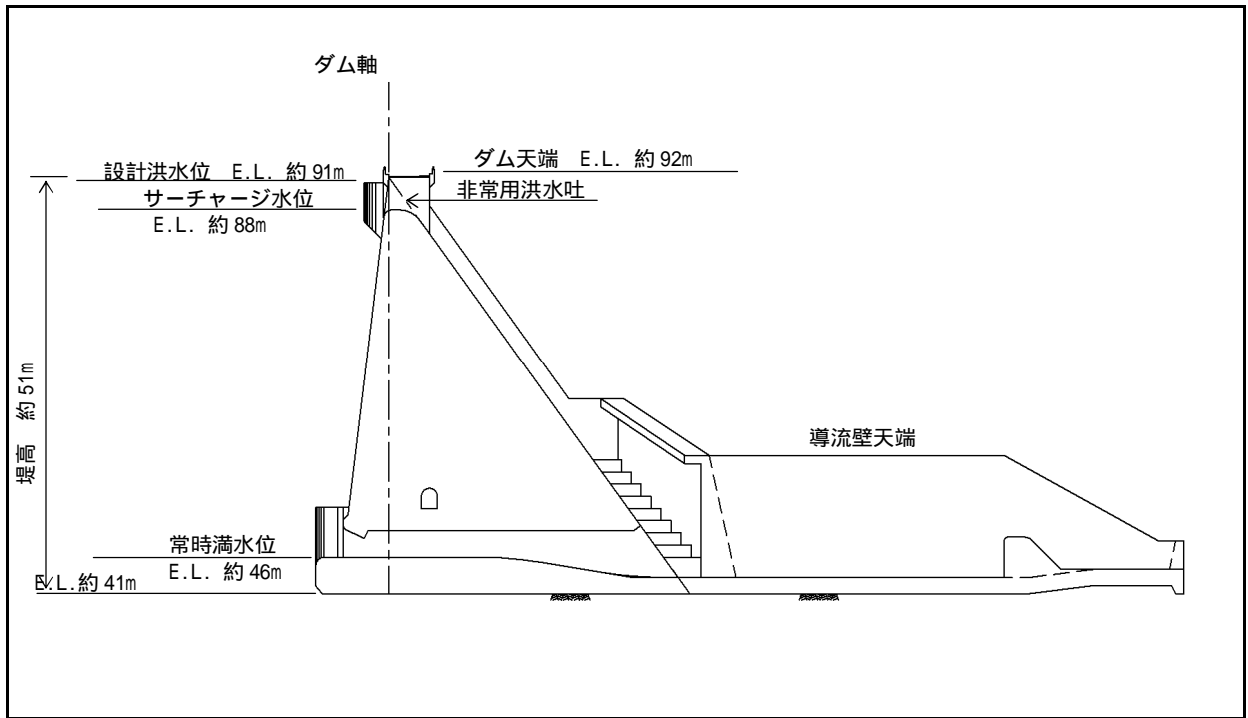


図 3-3 (3) 矢原川ダム標準横断面図

3.2 河川維持の目的、種類及び施行の場所

河川の維持管理については、地域の特性を踏まえつつ、洪水による被害の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持、河川環境の整備と保全等、河川の機能が維持されるよう県が管理する河川全域において、総合的に行います。

洪水による災害の防止又は軽減に当たっては、河川の堤防や護岸等の河川管理施設を良好な状態に保ち、その機能を十分に発揮されるよう、日頃から河川巡視によって異常の早期発見に努め、機動的な維持管理を行うとともに、河川管理施設の機能の維持更新を計画的に行ないます。

御部ダム、矢原川ダムについては、貯水池の巡視、堆砂測量及び水質のモニタリング等を行い、状況を把握します。また、観測設備、警報設備等についても定期的な点検を行い、ダム機能の維持に努めます。

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持並びに河川環境の保全にあたっては、現況の流水機能の維持に努めるとともに、河川の秩序ある利用形態、川と人とのふれあい機能、河川の自然形態等を維持管理し、河川敷内の草木の繁茂を流下阻害にならない程度に保全します。

さらに、河川管理者、関係機関、自治会、市民団体等と有機的に連携を図りながら、きめ細かな管理による河川美化を目指します。

3.3 その他河川整備を総合的に行うために必要な事項

(1) 河川情報の提供

多様化する流域住民のニーズに応えるため、河川に関する様々な情報についてインターネットや各種印刷物で情報提供をしたり、イベントなどを開催することによって、河川愛護の普及や河川整備に広く理解が得られるよう努めます。

また、災害による被害の軽減を図るため、非常時の危険区域や避難所等を示した防災ハザードマップの作成支援及び普及を行い、住民の安全な避難行動、地域防災活動を支援します。

現在、インターネットや携帯電話を通じて行っている雨量や河川水位といったリアルタイムの情報提供について、IT化の進展や観測機器の充実を通じてさらなる内容の拡充や普及を図り、より多くの流域住民への確かな情報伝達を行えるよう努めます。

(2) 地域や関係機関との連携

三隅川水系は多くの動植物が生息する河川です。子ども達にとって三隅川は、優れた自然体験の場であり、地域の伝統を学ぶ場でもあり、河川美化活動等を通じて社会のルールやマナーを学ぶ場でもあります。将来、三隅川水系の河川環境の良好な姿を引き継いで行くため、子どもを含めた地域住民に対して川に対する関心が高まるよう地元自治会や浜田市および益田市と連携して川とのふれあいや河川環境の向上を目指した河川愛護の普及、啓発や草刈、清掃等の河川美化活動の支援に努めてまいります。

また、地域に活きた親しめる川づくりをして行くためには、島根県、浜田市及び益田

市はもとより、沿川の地域住民の理解と協力を得ることが必要不可欠です。

このためには、三隅川水系に関する情報を地域住民に積極的に提供し、良好な水資源の確保や県土保全を担う森林等をはじめ、三隅川水系が地域共有の財産であるという認識のもとに、河川整備、河川の利用並びに河川環境に関する地域の意見・要望を十分に把握し、地域と一体となった河川整備の推進に努めます。

一方、洪水氾濫の恐れがある場合や発生時には、水防関係機関と密接な連絡を保つと共に水防活動を支援します。また、異常渇水時には河川情報を関係機関や地域住民に提供し円滑な渇水調整に努めます。

本書に掲載した下表の地図は、国土地理院発行の2万5千分1地形図、5万分1地形図を使用したものです。

掲載図面一覧表

ページ	図番	タイトル	図面の種類
5	図1-2	氾濫区域図	2万5千分1地形図
8	図1-3	取水施設位置図(ダム補給分)	5万分1地形図
21	図3-1	施行位置図	5万分1地形図
24	図3-3(2)	矢原川ダム建設平面図	5万分1地形図

(参考)

決定及び改定の経過			
区分	事項	年月日	備考
決定	同意 施行	H20.12.15 H20.12.15	